

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	編集後記
別タイトル	EDITORIAL POSTSCRIPT
作成者（著者）	東邦大学医学会編集委員会
公開者	東邦大学医学会
発行日	2019.12.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 66(4).
資料種別	その他
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD80010775

第 66 巻の広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬 (株)	田辺三菱製薬 (株)	ルパフィン
中外製薬 (株)	運動器疾患	

(ABC 順)

編集委員会

編集委員長：伊豫田 明
 編集委員：赤羽 悟美 弘世 貴久 池田 隆徳
 石井 良和 片桐 由起子 近藤 元就
 三上 哲夫 水野 雅文 中野 裕康
 佐藤 二美 島田 英昭 和田 弘太
 編集顧問：杉山 篤 津熊 久幸

(ABC 順)

編集後記

毎年 10 月はノーベル賞各賞の発表時期である。ここ 20 年を振り返ると、ほぼ隔年で物理学、化学、生理学・医学賞など、科学系の賞のいずれかに日本人の受賞報告があり、2019 年度も吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞した。その後、吉野氏が科学好きになったきっかけとして紹介したことから、「ロウソクの科学」(ファラデー著)が、岩波文庫、角川文庫ともに増刷になったとのことである。科学離れという話が言われている中でうれしい話である。

文科省は科学離れを食い止める目的で、スーパーサイエンスハイスクール指定を始めとした様々な事業を推進している。大学でも、教員が小中学校・高校への出前授業を行ったり、科研費を獲得した内容を生徒向けに展開するひらめき・ときめきサイエンス事業に取組んだりすることで、最先端の科学を紹介し、科学への興味を呼び起こすことを始めている。これはこれで、きっかけとしてはいいかもしれない。しかし、本当にこれでいいのかと疑問に思うこともある。生徒向けの実験では短い時間で楽しさを教えるために、すでに結果の分かったものを提供することが多い。テレビの料理番組で食材が準備され、レシピ通りに進めていけば必ず美味しい献立が出来上がるのと同じように、必ず良い結果が得られるようになっていく。研究では、実験方法や用いる試薬など、すべて考えなければならないし、また頑張っても必ずしも良い結果が出るとは限らない。失敗を繰り返してやっと結果が出る中で、仮説を検証していく

過程に楽しさを見出すことがなければ、本当の科学好きにはなれないのではないと思う。ノーベル賞という成果が得られるということは有意義ではあるが、多くの失敗と苦勞の繰り返しであることを伝えることが必要ではないだろうか。手軽に結果が得られる楽しさを教えても、結局、科学離れは進むのではないかと危惧している。本誌に掲載された論文も、苦勞して行われた実験結果の蓄積である。さらに結果を誰にでもわかる形でまとめなければ、掲載許可は出ない。このような地道な努力の成果をここに提供することは、小さいけれども科学の礎となる重要な使命であると思う。

(佐藤二美)

東邦医学会雑誌 第 66 巻 第 4 号

令和元年 12 月 1 日発行

編集兼 伊豫田 明
 発行人

〒143-8540 東京都大田区大森西 5 丁目 21 番 16 号
 東邦大学医学部本館 3 階

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077
 e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp
 http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原 3-46-10

株式会社 杏林舎